

【準特選】

へい和しゆう会で考えたこと

鹿島小学校 三年 中原 諒一

げんしばくだんが、さがのとなりの長さきに落とされた
なんて、かわいそうでした。広しまにも落とされたそうで、
こっちもとってもかわいそうでした。たった一このげんし
ばくだんで、たくさんのおいのちが一しゆんでなくなっ
てしまったと聞いて、びっくりしました。また、げんしば
くだんが落とされたえいきょうで、何十年もびよう気でく
るしんでいる人もいると聞いて、げんしばくだんってこわ
いなあと思いました。

ぼくのおじいちゃんは、ずっと前に長さきに住んでいた
そうです。げんしばくだんがおとされたあとに、空の色を

見たら、真っ赤だったそうです。いつもは青空なのに、空
が真っ赤になるなんて、おそろしかっただろうなあと思い
ました。もしも、今、日本がどこかの国とせんそうになっ
てしまったら、家がこわれてしまったり、いのちをうばわ
れてしまったりするかもしれません。ぼくの家がなくなっ
たり、殺されたりするかもしれないと思うと、とってもこ
わいです。せんそうは、とってもよくないものだと思います。
した。

へい和しゆう会で、げんしばくだんやせんそうの話を知
っているうちに、いつの間にかけんかやいじめなどの話に
かわっていました。どうしてかなあと考えながら話を聞い
ていたら、せんそうは国と国とのけんかから始まること
が分かりました。しかも、けんかはだんだん大きくなること
も知りました。

日本がほかの国とせんそうをしないためには、世界中の人たちとなかよくしたらいいと思います。だから、今のぼくたちにできることは、けんかをしない、わる口を言わない、むしはしないなど、まわりの友だちとなかよく生活することが大切だと思いました。